

第4回 十勝川中流部川づくり報告会【議事録概要】

【開催要旨】

開催日時：平成26年3月15日（土） 13:00～15:00

開催場所：とまちプラザ 4F 401号室

出席者数：60名

【議事要旨】

議事内容	確認事項	課題・その他
開会挨拶	十勝川中流部市民協働会議代表より開会挨拶	—
十勝川中流部市民協働会議について	事務局より、十勝川中流部市民協働会議について活動趣旨及び活動概要について説明	—
十勝川中流部の工事について	河川管理者より、十勝川中流部での川づくり（案）の進捗状況、および、次年度以降の工事の予定について説明	—
帯広工業高等学校からの発表	発表概要： 1年生：十勝大橋下流左岸草地復元箇所見学と草地復元イメージ図作成について報告 2年生：音更川合流点下流左岸草地復元箇所見学と草地復元イメージ図作成について報告	—
帯広農業高等学校からの発表	発表概要： 草地箇所：草地復元の目的説明と、十勝大橋上流左岸見学と草地復元イメージ図作成について報告 湿地箇所：湿地箇所におけるゼオライトを用いた漁礁型人工湿地の成果報告	—
草地復元2案発表	事務局より、十勝川草地復元2つの案を提案 1案：高校生のアイデアを参考にした事務局案 2案：植物専門家の意見を参考にした事務局案	—
質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者からの合意を得て、十勝川草地復元2つの案を市民案とする ・今後は、高校生等による測量と在来種播種を進めることを確認 	—
講評	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝川中流部市民協働会議が進める、自分たちの意見を市民が反映させていく試みは稀有な事例 ・高校生の発表はいずれも素晴らしい発表 ・工業高校と農業高校の試みは、アクティブ・ラーニングの実学である。これからの両校の実学に期待 	—
閉会挨拶	帯広河川事務所長より閉会挨拶	—

【議事概要】

○帯広工業高等学校生徒

発表者	発表テーマ	発言者	要旨
帯広工業 高等学校	十勝大橋下流左岸 草地復元箇所の 現地見学の感想、 草地イメージ図 作成について	1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は説明を聞いても、イメージが浮かばなかったが、現地での視察が大変勉強になった。 ・木が多いところを伐採するが、自然環境を大事にして、人や動物の憩いの場とする。在来種に限って草木を植える。 ・各班のコンセプトを1つにまとめて、図面を作成した。 ・自分たちのアイデアが活かされることは楽しい。
	音更川合流点下流左岸 草地復元箇所の 現地見学の感想、 草地イメージ図 作成について	2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に目で見て感じる事が大切だと理解した。 ・1班：現地の地形を活かした湿地を形成 ・2班：昆虫目線と人間目線でのそれぞれの配慮ポイントを考慮 ・3班：多様な草を植え、生き物の楽園をつくる ・4班：四季折々の木々を残し、出会いゾーンとして ・5班：最近、激減しているチョウの生育環境づくり

○帯広農業高等学校生徒

発表者	発表テーマ	発言者	要旨
帯広農業 高等学校 生徒	十勝大橋上流左岸 草地復元箇所の 現地視察の感想、 草地イメージ図 作成について	草地 担当 生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の樹林増→洪水被害懸念している。 ・人間の安全を確保しつつ、自然生態を考慮した。 ・河畔林が繁茂した環境を整えれば生物が棲みつくと考えられる。 ・現場視察で得た情報を基に図面を作成し、各班の意見に修正を加え1枚にとりまとめた。 ・学校の実習では学べないことを学べた。
	相生中島地区上流 湿地環境形成箇所の ゼオライトを用いた、 漁礁型人工湿地の 成果報告	湿地 担当 生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝では、農業が原因となる水質汚染が問題となっている。流域での対策が必要。 ・かつての湿地の98%が農地に変わった。 ・今、回復の手段を取らなければ、かつての自然に戻れない。 ・相生中島上流湿地でゼオライト（多孔質な石）を敷き詰め、魚類生息・産卵場所とする→「漁礁型人工湿地」 ・湿地全体に効果が期待できる規模ではないが、フクドジョウがゼオライトの周りに生息。モノアラガイも確認。今後、実験規模拡大し継続する。

○十勝川草地復元 2つの案

発言者	発表テーマ	発言者	要旨
市民協働会議	十勝川草地復元 2案： ・高校生のアイデアを参考にした市民案 ・植物の専門家の意見を参考にした市民案	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・1つ目の案は、高校生が作成した図面を繋げた案。高校生が図面を作成するに当たっては工事や生物の専門家が作成の指導をした。 ・2つ目の案は、1つ目の案をベースにして、植物の専門家の意見を反映させた。 <p>草地案を作るにあたって2つの基本方針を設けた</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来種を入れない 2) 幅 10m の樹林帯を残して樹木の連続性を保つ。ヤナギ林の中に寿命の長い広葉樹（ハルニレなど）が入るように樹木を残す場所を設定 <p>上記の2つの基本方針を基に、次の点も考慮した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河岸沿いに形成されているオギ群落・オオイタドリ群落はそのまま残す。 ・基盤の植生は、オオヨモギ、クサフジ等ヤマハギ等を考えている ・原生花園を構成する植生は、アヤメ、ノハナショウブ、エゾスカシユリ、ヒメイズイ、モメンヅル、ホザキシモツケ等を考えている。 ・山菜を構成する植生は、ウド、タラノキ、クサソテツ、ハンゴンソウ、ヨブスマソウ等を考えている。 ・人々が来て楽しめる場所となる様、取り組んでいきたい。

○質疑応答

発表者	発表テーマ	発言者	要旨
市民協働会議		代表	自分が高校生の頃は公害問題が主であった。今は、持続可能な開発や自然との共生を高校生が考えているレベルになっていることは素晴らしい。
帯広工業高等学校	帯広工業高等学校として、今後の関わりについて	教諭	楽しそうだったので自分自身もあれこれ考えていたが、それはあまり言わず、生徒にまかせた。たとえば伐採木を活用したチップを散策路に敷いても出水で流されるだろうが、それを最初から否定せず、生徒が考える様に任せておいた。卒業後も後輩が引き継いでいく。これから現実問題を踏まえて、考えていく機会が与えられることを期待する。
帯広農業高等学校	帯広農業高等学校として、今後の関わりについて	教諭	現場に出てみる機会がなかなかなくてありがたかった。生徒が参加して、地域のための計画を立てられて良かった。専門家の意見をいただきながら、一緒に活動させていただきよう、今後もよろしくお願いしたい。
市民協働会議		事務局	それでは、十勝川草地復元について、この形で市民案として決定します。

発表者	発表テーマ	発言者	要旨
—	—	参加者	学生が入ることで、夢のあるとても良い案ができた。開発建設部はこの案（草地復元案）の形をできるだけ崩さず、案に沿った形で進めてほしい。
河川 管理者		治水 課長	地域のことを考え行動する、大きな意味のある取り組みであり、卒業しても、協働会議に参画して、次世代につなげてもらいたい。
市民協働 会議		事務局	市民の推進については、来年度に生徒と当会議の協働作業で測量・種播きまで行いたい。 モニタリングして、外来種の侵入とヤナギの再樹林化を防げたか確認していきたい。

○講評

発言者	発表テーマ	発言者	要旨
市民 協働 会議	講評	顧問	<ul style="list-style-type: none"> この会議は、行政へ意見を言うだけの会議ではなく、自分たちの考えを自分たちで実現させていく方式。ほとんど他に例を見ない活動。 高校生は、今後も意見を出し、新しい（市民活動）分野のパイオニアとして活動続けてほしい。 工業高校1年生の発表について： 高校生になって1年足らずで、現場調査を行い、コンセプトを作り、ランドデザインを行うことができるということとはにかく立派。 工業高校2年生の発表について： コンセプトやデザインが1年生よりも進歩している。チョウ、原生花園というような、夢のある若い発想。 農業高等学校（草地）の発表について： タンチョウ、サクラの木、散策路など、ちょっと違った視点があった。イントロダクションで十勝川の状況が述べられ、プレゼンテーションの技術力が高い。 農業高校（湿地）の発表について 浄化システムについては、学校内から十勝川へと一歩進んだ取り組み。非常に良い視点。環境活動賞を更に用意しなければならないくらい。 最近、アクティブ・ラーニングが話題になっている。現場でいろんなことを考えてひらめきを得ることが大事。このことが、すでに2つの高校で行われている。実学、すなわち実際に役立つ学問が必要。

開催状況



十勝川中流部市民協働会議代表からの挨拶



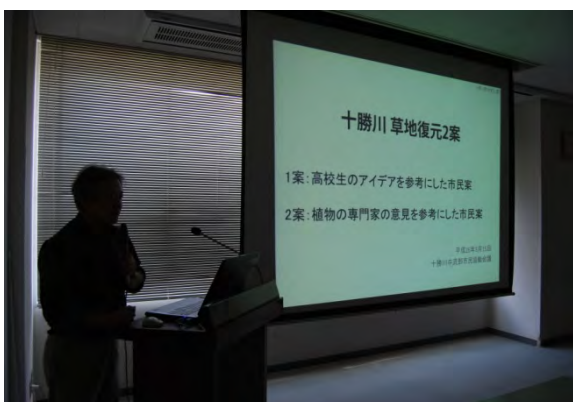
同会議事務局長からの説明



工業高校生徒からの発表



農業高校生徒からの発表



事務局から2つの草地案発表



質疑応答



同会議顧問からの講評



河川管理者より閉会挨拶